

公明府中行政視察について（報告）

このことについて、次のとおり実施いたしましたので報告します。

1 期間

令和4年1月12日～1月13日

2 視察地及び目的

①徳島県上勝町「ゼロウェイスト」の取組について
ゼロウェイストセンターアクション体験

3 視察者

福田 千夏 府中市是政3-16-4 042(361)6144

4 視察先の概要

上勝町

勝浦川上流に位置する町、雲早山を町内最高峰として、全体として山岳地帯。四国の町の中では最も人口が少なく約1,500人。面積は109.68㎢

近年、ゴミゼロ運動や第三セクター企業「いろどり」の「葉っぱビジネス」、榎原の棚田、山びこポイントなどがテレビ番組によく取り上げられている。特に2003年9月に出されたゼロ・ウェイスト宣言（ゴミゼロ運動）と「いろどり」については日本全国から取材にくるほどとなっている。また、住民参加型のバイオマス利活用にも取り組んでいる。その他、I/Uターン者が増加したことや、廃校利用、住民参画型まちづくり「1Q（いっきゅう）運動会」も脚光を浴びている。

ゼロ・ウェイスト活動の活性化のため、県内企業家が世界初の量売り百貨店「上勝百貨店」（現在のRISE&WIN Brewing .co BBQ&General store）を開設させるなどしたこともある。

町内ではゴミの回収を行っておらず、町民が自ら処分場へゴミを持ち込む。ゴミの持ち込みが難しい高齢者には2ヶ月に1度ゴミの回収を行っている。ゴミは45種類に分別し、まだ使える不用品は処分場に申請し引き取ってもらい、引き取った不用品は申請すれば町民以外も無料で持ち帰りができる。

5 視察内容

上勝町

ゼロウェイストの取組について

ゼロウェイストセンターにおいて上勝町が2003年に日本初の「ゼロウェイスト宣言」をした経緯とこれまでの活動や成果、実際のゴミステーションにおいての分別体験を行った。

■事業内容

2003年に自治体として日本で初めての『ゼロ・ウェイスト（Zero=0、Waste=廃棄物）宣言』を行う。上勝町のごみをゼロにする＝ごみをどう処理するかではなく、ごみ自体を出さない社会を目指し、上勝町ではごみ収集を行わず、生ごみなどはコンポストを利用し、各家庭で堆肥化。瓶や缶などのさまざまな「資源」を住民各自が『ゴミステーション』に持ち寄って45種類以上に分別、『ゼロ・ウェイスト宣言』から19年経過した現在、リサイクル率80%を超えています。

上勝町ゼロ・ウェイストセンターでは、WHYという疑問符を持って生産者と消費者が日々のごみから学び合い、ごみのない社会を目指しています。

ゼロ・ウェイストセンター内に、ゼロ・ウェイストアクションホテル「HOTEL WHY」が2020年にオープン。そこでは、宿泊中に出るごみを45分別する分別体験をはじめ、客室で利用する石鹸のセルフ切り分け、サービスコーヒー豆の量り分けなどのゼロ・ウェイストアクション体験ができます。また、上勝町のゼロ・ウェイストの取り組みを勉強できるゼロ・ウェイスト・スタディーツアー参加もおこなっている。

■感想

そもそも野焼きで各家庭のゴミを処分していた歴史があり、ゴミ処理法の法律改正ごとに小さな町ならではの工夫をしてきたそうですが、焼却処理にはお金がかかるという問題解決が結果的に環境問題の改善につながり、そこから見言えてきたものが一自治体の取組でしたが、世界的に取り組まなければいけないSDGsに直結するものとなりました。無駄・ゴミ・浪費をなくすという意味をもつゼロ・ウェイスト宣言を、2003年に自治体として日本で初めて掲げ「ゴミを生み出さない」社会を目指し町民を巻き込んで行えるのも人口の少なさからとは思いますが、リサイクル率80%は素晴らしい成果です。今回宿泊したセンター内に作ったホテルは、ホテルの建築そのものがユニークなデザインもさることながら、窓をはじめ、ソファやカーテンなど、不要品の素材や特徴をそのままにアップサイクルされたものでした。チェックインの際に、宿泊で使うハンドソープを必要な分だけカット。余計なゴミは出さないというゼロ・ウェイストの精神にのっとったサービスです。歯ブラシなど使い捨てアメニティーの提供をしていない徹底ぶりには感心しました。施設内の「ゴミステーション」では、「段ボール」をはじめ、「茶色びん」や「透明びん」など、ゴミの分別が45種類にも分かれています。通常は町民のみゴミの持ち込みができますが、宿泊の場合は利用可能となっていて、チェックアウトの際、宿泊の時に持ったゴミの分別体験にチャレンジできます。ゴミには、原料として再利用するマテリアルリサイクルや、焼却の際に発生する熱エネルギーを利用するサーマルリサイクルなどリサイクルできるものから、リサイクルできないものなどさまざま。今まで深く意識しなかったゴミの種類やリサイクルの方法についてより詳しく学ぶことで、自身の今後の生活を見直すきっかけとなりました。施設内にある「くるくるショップ」では、衣類や器、日用品などさまざまなアイテムが並びます。持ち込みは町民のみですが、持ち帰りは誰でもできます。自分にとっては不要なものでも、ほかの人にとっては必要なものかもしれないリユースの考えが町民に定着していると感じました。町の規模をそのまま本市に置き変える事は難しいですがゴミでなく資源リユースする考え方、焼却だけに頼らないという考え方が浸透すれば本市のゴミ削減・リサイクル率のアップにつながるのではと思います。

■添付資料

ゼロウェイストを広める小雑誌「くるくるvol11」

